



国際ロータリー第 2790 地区第 11 分区
2010～11 年度

情報研究会報告書

「テーマ」 私たちは何故週一度ロータリーに集うのか



「地域をはぐくみ、大陸をつなぐ」

2010～2011 年度 RI のテーマ





国際ロータリー第 2790 地区第 11 分区
2010～11 年度

ロータリー情報研究会

テーマ 「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」



「地域をはぐくみ、大陸をつなぐ」
2010～2011 年度 R I のテーマ

佐倉ロータリークラブ

佐倉中央ロータリークラブ

習志野ロータリークラブ

習志野中央ロータリークラブ

八千代ロータリークラブ

八千代中央ロータリークラブ

四街道ロータリークラブ

主 催	国際ロータリー第 2790 地区第 11 分区
ガバナー補佐	椎名博信
開 催 日	2010 年 10 月 13 日
会 場	J R 千葉駅ビル 6F ペリエホール
ホストクラブ	習志野ロータリークラブ

1 1 分区情報研究会 開催趣旨挨拶

国際ロータリー第2790地区

1 1 分区ガバナー補佐

椎名博信（習志野 RC）

本日は1 1 分区のロータリー情報研究会に、お忙しいなか沢山のロータリアンにお集まり頂きありがとうございました。また地区職業奉仕委員長の土屋パストガバナーを含め5名の地区職業奉仕委員会メンバーにお越し頂きました。本日は宜しく申し上げます。

お蔭様を持ちまして9月22日の「織田ガバナー公式訪問」で、1 1 分区の補佐訪問と公式訪問が全て終わりました。この場をお借りして、温かく織田ガバナーとガバナー補佐、分区幹事を出迎えて頂いた皆様に感謝申し上げます。

公式訪問の際に織田ガバナーがお話した「ロータリーの危機」に付いては良くご理解を頂戴したと思います。危機の中でも顕著な事例は会員数の減少です。2790地区は15年前の会員数4350名をピークに今年の8月末で2816名と35%も減ってしまいました。1534名の会員が夫々の理由で退会し、地区の平均年齢もじりじり上がっています。

補佐訪問・公式訪問の折に夫々のクラブが危機を乗り越える為に目標を設定し努力を重ねている事を勉強させて頂きましたが、本日は折角の機会ですので、職業奉仕やクラブ活性化、会員増強に対して出席者同士で情報や意見を交換し、ロータリーを深く考える一日にして頂ければ幸いです。

織田ガバナーは「ロータリー綱領の主文が、ロータリークラブは職業を通じて社会に奉仕する団体で有る事を明確にしている」とお話しされ、職業奉仕の正しい理解と実践を核にして奉仕活動を行なう事を推奨しています。

今日は皆様の日々のご努力に一層の実を付け加える為の勉強会です。我々は当たり前の様に毎週例会に出席していますが、改めて「何故、毎週例会に集うのか」に付いて地区職業奉仕委員会・堀内正一様の卓話を伺い、各クラブの皆様に別々に座って頂いているテーブル毎に意見を交わし、その思いを短い時間で恐縮ですが発表して頂きたいと思えます。

新年度が始まってから、まだ3ヶ月半が経過したところですが、地区委員会の皆様が、各クラブから招致されたクラブフォーラムに参加しながら開催している、情報研究会は本日で8回目と伺っています。

多忙を極める地区委員の皆様の熱い「奉仕の心」に感謝し、本日の研究会で交わされる議論が皆様に取りまして有意義で有る事を、心より祈念致しまして補佐の挨拶とさせていただきます。

ロータリー情報研究会開催にあたって

平成 22 年 10 月 13 日
習志野ロータリークラブ
ホストクラブ会長増田彰司

皆様こんにちは、ようこそ第 11 分区のロータリー情報研究会にお集まり頂きまして、誠にありがとうございました。

本日の第 11 分区ロータリー情報研究会の開催にあたりまして、椎名博信ガバナー補佐のご指導を仰ぎながら、地区職業奉仕委員会と各クラブから、大勢のロータリアンをお迎えすることができましたこと、ホストクラブ会長といたしまして厚く御礼を申し上げます。

卓話者であります地区委員の堀内正一様、地区奉仕委員長の土屋亮平様、地区クラブ研修委員長の海寶勘一様、地区職業奉仕委員長富一美様、地区クラブ研修委員の山下清俊様のアドバイスを受けながら、価値ある一日にしたいものです。

ホストクラブとして、精一杯できるだけの準備をさせて頂きましたので、織田ガバナーが提議された、「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」を皆様と一緒に討議して、職業人であるロータリアンが、一層人格形成を励みながら、日々のロータラリーライフを楽しんで頂けることを期待しております。

分区内、7 ロータリークラブのメンバーが一同に集まって、こうした情報研究会を開催できることは、色々な職業に携わっているロータリアンとして、情報交流を深めることができ、改めてお互いの人格形成の修練と、ご自身の事業繁栄に結びつけることが、最も大切であることを学びとってみたいものです。

人は一人では生きられぬと申します通り一生「喜怒哀楽」の人生を送っています。ロータリーを知ることは、ロータリーを楽しむことであり、会員であることが、喜びの自覚であります。その自覚を持ちながら、四大奉仕の活動計画による実践的な活動の中から生まれる真の友情こそが、ロータリークラブの本質であると思います。

ロータリークラブの主体は、そのクラブの中にあり、クラブに特性を生かし、クラブの繁栄を図ることが会員の隆盛となることと確信をしております。

これから地区委員の堀内様の卓話を拝聴して、その後のグループ討議では、研究会のテーマに沿った有意義で、活発なディスカッションができることを期待しております。

以上ロータリー情報研究会の開催にあたり、ホストクラブ会長としての挨拶とさせて頂きました。

2010年10月13日（水）
国際ロータリー第2790地区
地区クラブ研修委員会委員長 海寶勘一
（千葉西RC）

第11分区の皆さまこんにちは。

只今ご紹介を賜りました、地区職業奉仕委員会に属します、クラブ研修委員会の委員長であります、千葉西ロータリー・クラブに所属する海寶勘一です。

今年度は織田ガバナーからスタイルを磨こうという地区テーマを頂き、そのためには職業人としてのロータリアンの基本である職業奉仕をよく理解をして、一層ロータリーライフを有意義にさせていこうと、委員会活動がスタートをされております。

再度の御説明になりますが、各14分区でロータリー情報研究会を開催して頂き、分区の皆さまのグループ討議において、「私達はなぜ週一度ロータリーに集うのか」のテーマをもって、自由闊達なグループ討議をして頂きたいと思っております。

土屋職業奉仕委員長さんが、いつも口癖に申される言葉は、ロータリーの職業奉仕をもっと簡易に受け止めて、ご自身が日常携わっている事業経営の理念や姿勢そのものを、例会で集う仲間とともに自己研鑽をすることです、と仰っております。

毎週の例会では、形式や形骸化されたことだけではなく、もっと活発な会員同士の交流をもって、研鑽や修練や感化をしようことができるようにしたいものです。

これから堀内地区委員の卓話を参考にされて、是非とも意義のあるグループ討議をして頂ければ幸甚ですし、先ずはご自身の事業繁栄に結びつけて一層の職業奉仕の心を磨いてほしいものです。

最後になりましたが改めまして、第11分区のロータリー情報研究会を設営して頂きました、椎名博信ガバナー補佐さん、習志野ロータリー・クラブ増田彰司会長さん、西田庚平幹事さんには多大なご支援を賜りましたことに、心からの感謝と御礼を申し上げます。

誠にありがとうございました。

2010年10月13日

ロータリー情報研究会卓話

テーマ「私達は何故週一度ロータリーに集うのか」

2010～2011地区職業奉仕委員会クラブ研修委員

木更津ロータリークラブ 堀内 正一

皆さんこんにちは！！

只今ご紹介頂きました地区職業奉仕委員会のクラブ研修委員を仰せつかりました堀内と申します。

所属クラブは、木更津ロータリークラブで、職業分類は建築資材、主にワイヤロープの販売・加工を職業としています。

本日は、第11分区の「ロータリー情報研究会」で卓話をさせて頂く機会を頂戴いたしまして誠に有難うございます。

私は、昨年度地区広報・ロータリー情報委員会の一員として、「決議23-34からロータリーを知ろう」をテーマに2790地区を4グループに分けて行われた情報研究会のお手伝いをさせて頂きました。

今年度は、地区職業奉仕委員会クラブ研修委員としてお手伝いさせて頂くことになりました。もとより浅学非才の私ですので本日は卓話をさせて頂きませんが、あくまで私の役割はとかく難しいと言われる職業奉仕について土屋パストガバナーを委員長とします職業奉仕委員会で私なりに勉強した事を基に、例会出席との関係を出来る限り解り易く皆様にお伝えする事が出来ればと考えています。

そして、この後に予定されていますグループディスカッションでも私自身仲間に入り皆様と一緒に勉強させて頂きながら、実りある情報研究会にする事と思っています。

さて、本日の「ロータリー情報研究会」のテーマであります「私達は何故週一度ロータリーに集うか」ですが、私は今年でロータリー歴24年目を迎えます。

正直、過去何故例会に出席するのかと考えた事ありませんでした。それは、規則であると言うことばかりではなく、私の所属する木更津ロータリークラブは今年設立58年となりますが入会当時100%出席が当たり前で入会面接時に先輩からきつく守る様に言われていたからです。当然、私自身習慣のようになっていましたし、スケジュール手帳には必ず先ず例会日を予定として記入していました。私は今から24年前40歳の時入会させて頂きました。まだまだ当時はプレーイングマネージャーとしてあちこち飛び回っていましたのでホームクラブ出席が滞りがちでした。その頃は前後1週間のメイクアップしか認められませんでしたので慌てて良く近隣のロー

タリークラブへ訪問させて頂きました。お蔭様で他のクラブ会員との出会いや新し

い知識、発見がありとても勉強になりました。あるクラブでは余りも私が頻繁にメークアップするので転籍したらと冗談を言われた事もありました。

木更津ロータリークラブは1972～1973から1999～2000年迄28年間出席率100%を続けていました。

こんな設立当時のエピソードを先輩会員から聞いたことがあります。ある会員が病院に入院してしまして例会に出席出来ないでいると、その会員の推薦者と出席委員長が病室を訪れ、いきなり点滴を外し着替えさせて、千葉ロータリークラブ迄メイキャップに連れて行った事もあるそうです。

今ではとても考えられませんが、私はある時なぜこんなに100%にこだわるのかと先輩ロータリアンに尋ねたことがありました。そうしたら君は何を言っているんだいロータリーは例会出席が第一で手続要覧を勉強し例会で自分を磨く処なんだよと言われました。

そしてその先輩は自分の目の黒い内は100パーセント出席を止めることは許さないとハッキリと言われました。

また、ある会員は自分は手続要覧を事務所と寝室そしてトイレにそれぞれ置いて常に読んでいるよと言われビックリした事を覚えています。

然しながら100名近くいました会員も約半数迄に減少するなか、会員増強、会員維持の名のもとに残念ながら2000～2001年以降100%は途切れしました。その後は皆様も良くご存知の様にメイキャップが前後2週間迄可能になりましたが、一度途切れた出席率は改善されるより、残念ながらむしろ年々低下傾向にあります。

「ロータリーも時代と共に変化しなければならない」と創立者ポール・ハリスが述べておられるし、良くダーウィンが書いた「種の起源」に「この世の中で生き残れるものは最も強いものでなく、最も変化に適応したものが生き残れる」の言葉にありますように、ロータリーは会員資格・出席規定等を3年毎に開催される規定審議会にて改訂してきました。

しかし、このロータリーの根源に関わる改訂も果たして出席率の向上や会員増強の為になっていますでしょうか？

少なくとも木更津ロータリークラブでは、改善されませんし、その効果に疑問があります。私はむしろ不易流行、変えてはいけないものと変えなければならないものをもっと精査し充分見極める必要があったように思います。

例会は、会員一人一人が作っていく場であります。

従って、会員の出席がなければ当然例会は成り立ちません。例会出席は会員自らの目的意識の問題ではないかと思えます。それでは、どの様な目的意識をもって例会に出席したら良いのでしょうか？

2

ロータリアンには良く幾つかの守るべき責任があるとされています。

例会出席・会費の納入・「ロータリーの友」購読の他に最も重要なものに、皆さんが入会時に受諾された「ロータリーの綱領」を守る事であります。

今年度織田ガバナーが特に強調されておられる一つといたしまして、ロータリーの綱領（object of Rotary）即ち直訳語でロータリーの目的を正しく理解する事が重要であると述べておられます。

ロータリーの綱領の主文には、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し」と書かれていますが、ここで言う「有益な事業の基礎」と言う言葉で表しております通り、ロータリーの綱領の主文は職業奉仕について述べている事が分かります。

更に補強項目の第二項に「事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するためにその業務を品位あらしめること」という規定がありますが、これがまさにロータリーの根幹は職業奉仕にあるとされている根拠でもあります。

数多く存在する奉仕団体の中で、職業奉仕を主体とする団体はロータリークラブ以外には有りません。

前年度R I 会長ジョン・ケニー氏はロータリーが職業奉仕を失えば単なる奉仕団体でしかないとはっきり言い切っています。

つまり、ロータリーの綱領から判断する限りでは、ロータリークラブは職業倫理の向上を諮る事を目的とした団体であり、奉仕の心を実践する人の集まりであるはずです。

従って、異業種の優れた良質な職業人との出会いの場である例会では、品格の向上を諮り自己研鑽に励み、自分自身の足りない処を仲間の会員から学ぶところと考目的意識を持って、出席したら良いのではと私は思います。

良くロータリーでは、親睦が大事だと言われます。親睦なくして奉仕なしとも言われています。ロータリーの親睦とは、元R I 会長ビチャイ・ラタクル氏が単なるフレンドシップでなくフェローシップであると明確に述べておられるように、互いに週一回の例会の場で接する事により自己研鑽をし、道徳心の高揚を諮る事だと私は思います。

もちろん、所謂フレンドシップの親睦会や飲食会、ゴルフ会も会員同士が打ち解けあう手段であり重要ではありますがあくまで一つの手掛かりと考えられます。

従いまして、このフェローシップとフレンドシップをバランス良く調和してこそ、素晴らしいロータリー活動が実現出来るものと思います。

選ばれた良質な職業人が例会で心を磨き、自己研鑽を遂げたそのエネルギーこそが、

奉仕の心であります。奉仕の心を持って行動を起こし、その実践の場が職場であり、

地域社会であり、国際社会であります。勿論ロータリアン自身の家庭でもあります。ロータリークラブが職業人の集まりである以上、会員の事業の安定と発展なしにはロータリー運動を維持することはできません。

自由競争社会で今日の大変厳しい時代こそ、安定した利潤を挙げるには「超私の奉仕」即ち買い手の立場で思い遣り、売り手の立場で行動する職業倫理が重要です。そしてクラブの例会では、会員同士互いに感化をし合い切磋琢磨し、自分自身が成長すると共に、学んだ事を自分の職場の従業員や業界の人々に広く押し勧める事が大切です。

1954～1955年度のRI会長ハーバード・テラーは1932年倒産寸前の会社を救済する為「四つのテスト」を提唱して関係者に配布し、見事にその会社を再建させました。その後1954年にその著作権がロータリーに移譲され、以後この「四つのテスト」がロータリアン各自の職業奉仕を自己評価する尺度として、重要な機能を果たして今日に至っている事は皆様も良く御承知の通りであります。また、この事はロータリーの友の今月号に詳しく掲載されていますが、この歴史的事実を知り、我々は「四つのテスト」を真摯に身に付けて、職業の尊厳と価値を高めたものだと思います。第4分区のなかには「四つのテスト」を例会で朗読しているクラブもあるそうですが素晴らしいことだと思います。

さて、私の職業は冒頭申し上げました通り主にワイヤロープの販売と加工を生業としています。ワイヤロープと言いますと皆さんなかなか馴染みがないかもしれませんが、産業の命の綱と言われ様々な分野で使われています。漁業・林業・建設・造船・鉄鋼・機械と多岐にわたっています。

皆さんが良く目にするのは、エレベーターやロープウェイ、吊橋などだと思いますが、変わった処ではボクシングやプロレスのリングまたバレーボールのネットなど身近な処でも使われています。

最近、話題になっている処では、コンクリートから人へと突然中止になりました群馬県の八ッ場ダムや現在東京隅田区で建設中の高さ634mになる予定の東京スカイツリーの現場などでも使われています。

私共の会社は会長である父の代からですが、父は常々商売は信用と信頼が第一であると申しています。それはロープが万が一切れたりしたら死亡事故等重大災害に繋がるからです。

自由競争社会ですから、よく社員が見積り競争の際、品質の余り安定してない安価なロープを導入し利益をあげようとする事を申し出てきます。

私はその時ロータリーの「四つのテスト」を引き合いに出し「真実かどうか」つまりお客様に安心して安全にお使いになっていただけるロープなのか、また「みんなの

ためになるかどうか」お客様のためだけでなく社会のためひいては自分達のために

なるのかを良く説明します。

食品であれロープであれどんな商品でも商売する時大切なのは信頼であり信用だと思います。

お蔭様で今日迄事業を続けられてきましたのも、ロータリークラブに入会し学んだお蔭だと思っています。

「ロータリーは、人生哲学」であり、利己的な欲求と他人の為に奉仕をしたいとする自己感情の矛盾を上手く調和させようとする学習です。また、真心をもって人を思い遣り、職業を通して世の中に貢献していく事が、ロータリーの「奉仕の理想」言い換えれば「奉仕の理念」になるのだと思います。

米山梅吉翁は「ロータリーの例会は人生最高の修練の場である」と述べておられます。

私は現在木更津ロータリークラブがとっても好きです。週一回の例会が心の癒しの場になっているだけでなく、長い歴史に培われた友愛と寛容の精神があり、たとえば、お医者さんの会員からは気軽に自分の健康の相談が出来、社会保険労務士の会員からは従業員の福利厚生についてお尋ねする事が出来ます。

そして何といたっても2790地区でおそらく最高齢ではないかと思いますが98歳になられるチャーターメンバーの会員が必ず毎週出席され温故知新ではないですが色々な人生訓をご指導頂けるこんな素晴らしいクラブに在籍でき本当に幸せな事だと感謝しています。

そして今では会員同士「生涯ロータリアンでいようよ」と互いに声を掛け合っているところです。

国際的なロータリーの会合の入口に掲げられています「入りて学び、出でて奉仕せよ Enter to learn, Go forth to serve」の言葉は、ロータリーの会合に参加する時にはその会合を通じてロータリアンとしての心を磨くという目的意識をもって参加し、会合を終えてコミュニティーに戻れば、奉仕の心を実践に移す事を意味しています。

毎週ある例会を待ち遠しく思いながら、出席した例会ではロータリー道を学び「ロータリアンよ一流の職業人たれ」と言う言葉のもと、私はこれからもアーサー・フレデリック・シェルドンが掲げた「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という職業奉仕理念を身に付けて実践していこうと思います。

終わりにになりましたが、本日のテーマ「私達は何故週一度ロータリーに集うか」に対しまして皆様からは様々なご意見があろうかと思いますが、この後のグループディスカッションで、互いに積極的な意見交換をして頂き、有意義な情報研究会になる事をお祈り致しまして私の拙い卓話とさせていただきます。

ご静聴有難うございました。

「ロータリー情報研究会」 レジメ 平成 22 年 10 月 13 日(水)

記

テ ー マ 「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

プログラム

13:30 登録開始

14:00 点 鐘

国歌斉唱

ロータリーソング 奉仕の理想

14:10 ガバナー補佐開催趣旨挨拶 ガバナー補佐椎名博信

14:15 ホストクラブ会長挨拶 習志野ロータリークラブ増田彰司

14:20 地区職業奉仕委員長挨拶 パストガバナー土屋亮平

14:25 地区クラブ研修委員長挨拶 海寶勘一

14:30 卓 話 地区研修委員堀内正一

「私たちは何故週一度ロータリーに集うのか」

14:50 テーブルごとにグループ討議、意見交流(5名の地区委員がアドバイザースタッフを勤めて頂く)

15:30 テーブルごとに意見発表

16:20 ガバナー補佐総評挨拶

16:30 点 鐘

本日のアドバイザースタッフ

◎訪問地区委員

- ・土屋 亮平様 (つちや りょうへい) 地区職業奉仕委員長 (松戸 RC)
- ・卓話者=堀内 正一様(ほりうち しょういち) 地区クラブ研修委員 (木更津 RC)
- ・冨 一美様 (とみかつみ) 地区職業奉仕研修委員長 (成田空港南 RC)
- ・山下 清俊様 (やました きよとし) 地区クラブ研修委員 (市川東 RC)
- ・海寶 勘一様(かいほう かんいち) 地区クラブ研修委員長(千葉西 RC)

第 11 分区ロータリー情報研究会出席者名簿

本日のアドバイザースタッフ

◎訪問地区委員

- ・土屋 亮平 (つちや りょうへい) 様 地区職業奉仕委員長 (松戸 RC)
- ・堀内 正一 (ほりうち しょういち) 様 = 卓話者
地区クラブ研修委員 (木更津 RC)
- ・富 一美様 (とみかつみ)
地区職業奉仕研修委員長 (成田空港南 RC)
- ・山下 清俊様 (やました きよとし)
地区クラブ研修委員 (市川東 RC)
- ・海寶 勘一様 (かいほう かんいち)
地区クラブ研修委員長 (千葉西 RC)

A テーブル=10 名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者
丸印=出席

◎岡村 美智子様	佐倉ロータリークラブ
◎青木 安弘様	習志野ロータリークラブ
◎石井 憲徳様	々 (メモ作成)
◎石原 博様	々
◎池田 博様	習志野中央ロータリークラブ
◎山本 美代子様	々
新井 ミエ様	々
◎庄司 昭様	々
◎遠藤 章雄様	八千代ロータリークラブ
◎土屋 信之様	八千代中央ロータリークラブ

出席者 9 名

B テーブル=10 名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者
丸印=出席

- ◎岩野 英穂様 習志野ロータリークラブ

◎大木 亨様	々 (メモ作成)
◎小林 道成様	々
◎斉藤 弘様	習志野中央ロータリークラブ
◎崎山 征雄様	々
◎椎名 久雄様	々
◎風間 茂様	八千代ロータリークラブ
◎佐藤三作様	八千代中央ロータリークラブ
内藤八洲夫様	四街道ロータリークラブ
◎吉成 庸子様	々
	四街道 RC ◎(事務局) 菊池恵子

出席者 9名

C テーブル=10名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者
丸印=出席

◎佐藤 吉男様	習志野ロータリークラブ
◎斉田 隆 様	々 (メモ作成)
◎椎名 博信様	々
◎塩田 俊一様	習志野中央ロータリークラブ
◎清水 晴好様	々
◎朱 孝 様	々
◎飯田 充明様	八千代ロータリークラブ
◎小林 實 様	八千代中央ロータリークラブ
山本 克己様	四街道ロータリークラブ
◎森本 次郎様	々

出席者 9名

D テーブル=9名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者
◎印=出席

◎白鳥理一郎様	習志野ロータリークラブ
◎杉山 芳夫様	々
◎田岡 修一様	習志野中央ロータリークラブ
◎高橋 賢様	々
◎高橋 四郎様	々
◎池田 等様	八千代ロータリークラブ

- ◎猪飼 清文様 八千代中央ロータリークラブ
- ◎六平 暁様 四街道ロータリークラブ
- ◎松本 金次様 々

出席者 9名

E テーブル=10名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者
丸印=出席者

- ◎鈴木 純雄様 習志野ロータリークラブ
- ◎鈴木 均様 々
- ◎高橋 良昌様 々(メモ作成)
- ◎高山 貴子様 習志野中央ロータリークラブ
- ◎中島 広明様 々
- ◎中野 尚宏様 々
- ◎西田 禮子様 々
- ◎上代 修二様 八千代ロータリークラブ
- ◎古川 茂様 四街道ロータリークラブ
- ◎原 勝美様 々

出席者 10名

F テーブル=9名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者
丸印=出席者

- ◎田村 清人様 習志野ロータリークラブ
- ◎鴫田 禮司様 々
- ◎鳥飼 三津男様 々
- ◎西方 恭子様 習志野中央ロータリークラブ
- 橋本 豊様 々
- 花澤 茂様 々
- ◎君塚 欣哉様 八千代ロータリークラブ
- ◎成島 弘様 四街道ロータリークラブ
- ◎中沢 良夫様 々

(メモ作成)

出席者 8名

G テーブル=9名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者

丸印=出席者

佐藤 正直様	四街道ロータリークラブ
齊藤 ミツ様	々
◎佐野 忠信様	八千代ロータリークラブ
◎平澤 規雄様	習志野中央ロータリークラブ
◎平山 博己様	々
◎広瀬 正彰様	々
◎西田 庚平様	習志野ロータリークラブ
◎林 安次様	々
◎増田 彰司様	々 (メモ作成)

出席者 7名

H テーブル=9名

テーブルマスター 囲みの方書記及び発表者

丸印=出席者

◎松本 孝幸様	習志野ロータリークラブ(メモ作成)
◎三橋 一夫様	々
◎宮崎 仁様	々
◎布施 国雄様	習志野中央ロータリークラブ
◎古田 憲一様	々
◎三田 英志様	々
◎三井 啓久様	八千代ロータリークラブ
◎久賀田雅浩様	四街道ロータリークラブ
◎大熊 貞雄様	々

出席者 9名

I テーブル=9名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者

丸印=出席者

◎岩崎 肇様	佐倉中央ロータリークラブ
◎安田 安利様	習志野ロータリークラブ
◎由川 久子様	々 (メモ作成)
◎三代川利雄様	習志野中央ロータリークラブ

- ◎矢野 周二様 々
 ◎宮田 慎吾様 八千代ロータリークラブ
 ◎能田 宗建様 八千代中央ロータリークラブ
 大賀 きぬよ様 四街道ロータリークラブ
 ◎今泉 重弘様 々

出席者 8名

J テーブル=9名

テーブルマスター 囲みの方 書記及び発表者

丸印=出席者

- ◎山川 成美様 佐倉中央ロータリークラブ
 ◎吉野 晴彦様 習志野ロータリークラブ (メモ作成)
 ◎鯨井 徹様 々
 ◎山崎 由美様 習志野中央ロータリークラブ
 山谷 徳一様 々
 ◎渡辺 敏美様 々
 ◎八田 英雄様 八千代中央ロータリークラブ
 ◎村山 勝巳様 四街道ロータリークラブ
 ◎引地 素久様 々

出席者 8名

「第 11 分区 7 クラブ登録者」

(アイウエオ順)

「テーブル A～J」

- ◎ 佐倉ロータリークラブ様 1名
 - A 岡村 美智子様 会長

- ◎ 佐倉中央ロータリークラブ様 2名
 - I 岩崎 肇様 会長
 - J 山川 成美様 PG補佐

- ◎ 習志野ロータリークラブ様 28名
 - C 椎名博信様 ガバナー補佐
 - F 鳥飼三津男様 地区幹事
 - G 増田彰司様 会長
 - G 西田庚平様 幹事
 - A 青木安弘様
 - A 石井憲徳様
 - A 石原 博様
 - B 岩野秀穂様
 - B 大木 亨様
 - B 小林道成様
 - C 斉田 隆様
 - C 佐藤吉男様
 - D 司茂 實瑠様
 - D 白鳥理一郎様
 - D 杉山芳夫様
 - E 鈴木純雄様
 - E 鈴木 均様
 - E 高橋良昌様
 - F 田村清人様
 - F 鴫田禮司様
 - G 林 安次様
 - H 松本孝幸様
 - H 三橋一夫様
 - H 宮崎 仁様
 - I 安田安利様
 - I 由川久子様
 - J 吉野晴彦様
 - J 鯨井 徹様

◎ 習志野中央ロータリークラブ様 30名

A	池田 博様	会長		
A	山本 美代子様	幹事		
A	新井ミエ様		E	西田 禮子様
A	庄司 豊様		F	西方 恭子様
B	斉藤 博様		F	花澤 茂様
B	崎山 征雄様		F	橋本 豊様
B	椎名 久雄様		G	平澤 規雄様
C	塩田 俊一様		G	平山 博己様
C	清水 晴好様		G	広瀬 正彰様
C	朱 孝様		H	布施 国雄様
D	田岡 修一様		H	古田 憲一様
D	高橋 賢様		H	三田 英志様
D	高橋 四郎様		I	三代川利男様
E	高山 貴子様		I	矢野 周二様
E	中島 広明様		J	山崎 由美様
E	中野 尚宏様		J	吉谷 徳一様

◎ 八千代ロータリークラブ様 10名

A	遠藤 章雄様	会長		
B	風間 茂様	幹事		
C	飯田 充明様			
D	池田 等様			
E	上代 修二様			
F	君塚 欣哉様			
G	佐野 忠信様			
H	三井 啓久様			
I	宮田 慎吾様			
J	渡辺 敏美様			

◎ 八千代中央ロータリークラブ様 6名

J	八田 英雄様	会長		
I	能田 宗建様	幹事		
D	猪飼 清文様	情報委員長		
C	小林 實様		A	土屋 信之様
B	佐藤 三作様			

- ◎ 四街道ロータリークラブ様 18名
- | | | | |
|---|-----|------|----|
| J | 引地 | 素久 | 会長 |
| J | 村山 | 勝巳様 | 幹事 |
| B | 内藤 | 八洲夫様 | |
| B | 吉成 | 庸子様 | |
| E | 古川 | 茂様 | |
| E | 原 | 勝美様 | |
| F | 成島 | 弘様 | |
| F | 中沢 | 良夫様 | |
| G | 佐藤 | 正直様 | |
| G | 斉藤 | ミツ様 | |
| H | 久賀田 | 雅浩様 | |
| H | 大熊 | 貞雄様 | |
| I | 大賀 | きぬよ様 | |
| I | 今泉 | 重弘様 | |
| D | 松本 | 金次様 | |
| D | 六平 | 暁様 | |
| C | 森本 | 次郎 | |
| C | 山本 | 克己様 | |

各テーブル意見交換及び発表

◎

やはり、異業種の人々の交わりは、自分ひとりでは分からない色々な事を教えてくれます。例えば、オーナー社長とそうでない社長との違いも直に肌で感じる事が出来、直接会って面談することはとても大事な事だと思います。卓話は聞いて役に立ち、自分で行って自分の為になります。仕事とロータリークラブの予定が重なる場合は仕事を優先しますが、会員としてはメイクアップ等を利用して、できるだけ出席率100%を目指すべきだと思います。又、人と人との絆は宝石箱の様なもので、それを開ける鍵は週一回の例会会場にあると思います。

◎

- ・ 中学校、高等学校のクラブ活動のように、たえず一緒に活動することで親睦が出来る。
- ・ 新人から見て最初の3年くらいまで親睦が広がらなかった。
- ・ (四街道 森本さん)
- ・ 毎週の例会の見方を変えて月に一度としらどうであるか。＝ 毎週となるから親睦が出来る。
- ・ 席を替える努力をする、着席場所の前後左右の会員と握手をする。又、そのことを日記に記録している。(八千代 飯田さん)
- ・ 席を替えている。
- ・ 会長のとき一年間のテーマを決めてスピーチをした。比較的人気はあった。(八千代中央 小林さん)
- ・ 新人は毎例会テーブルを変える努力をしている。(習志野中央 朱さん)
- ・ ゲストが見えたら同席して交流を待つ。
- ・ 例会場は人生の道場であり、自分を磨く。
- ・ 知識や見聞、新しい趣味を見つける。(習志野中央 塩田さん)
- ・ 一週間に1時間の勉強と思う。
- ・ 数人の親しい友人との挨拶のようなもの、小さな喜びのような時。
(習志野 斉田さん)

◎

- ・ 私たちロータリー暦の長い人は、週に一度の例会日は、必ず空けておいて、その日を有効に活用して、情報の交換や職業奉仕をし、そして、自己研鑽の

場として、親睦を深めているようです。

- ・入会して三年未満の方は、出席することにより連帯感を養い、自分を訓練して、そして先輩との出会いを楽しみにしています。
- ・一年未満の方は、例会の出席時間の調整に苦慮しているようですので、職業優先か、出席優先か考えさせられます。

◎

- ・最初は出席義務が負担であり大変であるが、何ヶ月か続けて出席をしていると様々な業種の方々との情報交換や親睦を通じ、ロータリー哲学がわかると出席するのが楽しくなる。
- ・ロータリーが生活の一部になり何週かロータリーのない週が続くとロータリーの仲間に会いたくなる。
- ・週一度、息抜きが出来る憩いの場でもある。
- ・ロータリーに週一度集うことにより自己研鑽ができる。他業種のすばらしい経営者の集まりであり、アイデアの交換を行うことが出来、お互いにいい刺激を与え合うことにより職業奉仕の実践を行える。
- ・まだ入会 8 ヶ月しか経っていない為、ロータリーに出席すると不思議な感じがするが、女性会員が 5 名おり、他の女性会員が気を使ってくれて、いやな思いは無いが、現役で仕事をしている会員にとっては 100%の出席はむづかしい。
- ・出席委員長、親睦委員長などの役割を行うことにより、出席が自然に行われるようになった。
- ・ロータリーに入会するとき、紹介者からロータリアンは、その業種に関して、地域で一番の人が入会する会であるといわれて、非常に刺激を受けることが出来た。

◎

- ・入会すると仲間がいつべんに出来る楽しさがある。
- ・入会の際に 100%出席が決め事である。
- ・出席率が会員増強に繋がってゆく。
- ・生涯スローガン、知って学び、知って奉仕せよ。
- ・変えていいものと変えていけないものがあり、目的意識を持っているか。
- ・人と人との出会いの深さと話が出来る。
- ・ロータリーは心の財産であり自己研鑽の場である。
- ・昔は仕事に追われて苦痛であったが、今は、仲間に出会える楽しさがある。
- ・ハードルの高いステータスを持って会うことが大切である。

- ・職業人としての誇りを持つこと。
- ・職業奉仕の実践こそ大道である。
- ・週一回相手を知り、自分を知る場である。
- ・一週間の報告と成果と反省の場である。
- ・月一回の夜間例会で会える人に会える。
- ・ロータリークラブの見方、違いとその喜びとは何か。
- ・メーキャップも大切、知らない喜びの発見がある。
- ・辞めたくないロータリーを続けるために、無理をせず、マイペースの出席をする。
- ・健康とお金が続く限り出席していく。
- ・社会に通用するロータリアンになること。
- ・ロータリークラブ会員の減少は経験の浅い人に多い。
- ・ゴルフと飲み会では会員が減っていく。
- ・メーキャップから E キャップ(ネット)での参加もスタートした。
- ・98歳のチャーターメンバーが100%出席している。
- ・欠席すると出たくなる。理事、役員は経験こそ勉強の場である。
- ・人は一人では生きられない
- ・食い逃げロータリーにならないように。
- ・目的を持ったニコニコは多く集まる。
- ・床屋さんが無料で散髪するのは職業奉仕ではなく、社会奉仕である。
- ・ロータリーのお守りは三つある。
 - 1、会費を納めているから
 - 2、異業種の集まりと楽しさと成長である。
 - 3、みんなの話し合いの場であり、出会いのチャンスがある。

◎

- ・RC 暦の長い方と短い方双方の意見交換ができた。
- ・メイクアップも大切。歴史の長いクラブやガバナー輩出の格調高いクラブで通常では接触が難しい方々と交流できる。
- ・館山ロータリークラブでは年に一回数名で東京ロータリークラブへのメーキャップを実践している。そこでは、大手企業のトップ、OB といった方々が委員会の役職等を勤めている様子が見聞できる。
- ・車内の予定表(黒板)に例会のスケジュールを書き込み、自身、社員の認識を高め、100%出席を目指した。また、同業でない方々と屈託のない意見交換が出来、そのことによってストレスの解消や経営者としての孤独感の軽減が出来る。

- ・例会交流で地域での業務や生活の知恵を会員から得られる。
- ・健康についても会員の医師に適切なアドバイスをもらえた。又、リスクの低い治療を受けて回復できた。
- ・経営者の立場ではやりたくなければ自分自身で選択できる役割を割り当てられることによって体験できる。
- ・入会暦は短いが、今は勉強ため、例会が待ち遠しい。
- ・入会暦が長く、いろいろ有ったが自分を含め周囲の為にも大変役に立った。若い人に大いに期待しています。

◎

- ・例会 100%を達成する為、メーキャップをしなければ達成出来なかった。
- ・目的意識、会費の納入出席、職業倫理の向上を目的とした奉仕を行う人達が集まる団体、フレンドシップではなく、フェローシップであるべき。
- ・信用と信頼と職業奉仕を行ううえでの、重要なファクター。
- ・例会 25 年行事は必ず出席するよう教えられた。
- ・チャーターはかりを必ず返す→ロータリーの活動が良くわかる。
- ・自分の足りない知識を補える場所である。
- ・入会するまでは地元を知らなかった。出席し続けることによって地域の方々の情報が判り非常に良かった。
- ・仕事の一環として参加している。
- ・おいしい食事をいただけることも重要なファクターである。
- ・歴史と伝統あるクラブに入会でき、異業種の方々との交流が大変役に立った。
- ・会員、外部双方の方々の卓話は、大変参考になり楽しいクラブである。
- ・週一回は仕事上、大変厳しいが長く続けるには無理は禁物である。
- ・健康と資金が続く限り大会はしない。
- ・他の団体にはない素晴らしさがロータリーには有る。
- ・100%出席を続けている。自己研鑽の場として最適である。
- ・厳しい戒律。→ロータリーに通じる。
- ・家族に週一度集まる習慣を付けたいのと例会は同じ。
- ・ロータリーに加入することは誇り。
- ・異業種との出会いの場、交流と情報交換収集。

土屋職業奉仕委員長閉会の御挨拶

国際ロータリー第2790地区第11分区ロータリー情報研究会の閉会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

本年度のロータリー情報研究会は、椎名 博信ガバナー補佐様のご指導の下、増田 彰司習志野ロータリークラブ会長様を始めとする第11分区の皆様のご協力を戴き、情報研究会がこのように立派に終えることができましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修委員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、断つての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか？”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか？”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日摺み採って頂いたと思います。それこそが、職業奉仕を理解する上での大前提であるからであります。

第11分区のロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様にとってのロータリー情報研究会でありました。

敢えて言わせて頂ければ、地区職業奉仕委員会の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ今日された活発なるご討議をクラブに持ち帰って頂き、楽しく、実り多いクラブ例会になりますことを期待致します。

混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

2010-10-13

地区職業奉仕委員長
土屋 亮平

情報研究会収支報告書

収入 各クラブよりの登録料 (会員一人当たり¥1,000円)

佐倉ロータリークラブ	13,000円
佐倉中央ロータリークラブ	14,000円
習志野ロータリークラブ	38,000円
習志野中央ロータリークラブ	42,000円
八千代ロータリークラブ	48,000円
八千代中央ロータリークラブ	27,000円
四街道ロータリークラブ	21,000円
合計	203,000円

支出

ペリエホール使用料	179,155円
(マイク 4,200円・飲み物 25,414円)	
ロータリー横断幕	5,440円
コピー代	1,800円
合計	186,395円
差し引き残高	16,605円

会場

「ペリエホール」

株式会社 千葉ステーションビル

〒260-0031 千葉市中央区新千葉1丁目1番1号

TEL 043-227-1195 FAX 043-224-4947

担当者 島田様

差引残高 16,605円については、平成23年2月9日(水)に予定しているIM (ウイシュトンホテル)に向け繰越いたします。

担当 習志野ロータリークラブ会長 増田彰司
幹事 西田庚平